NEWS RELEASE

2012年3 月

キリンMCダノンウォーターズ株式会社

日頃の備蓄・ストックに関する調査

震災後は備蓄の意識、実践度とも高まる

～正しい備蓄量を把握している人わずか35%～

キリンMCダノンウォーターズ株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長 木本　匡亮）は、2012年2月、25～39歳の母親500名に対し、「家庭における災害に対する備え　実践度調査」をインターネット調査にて実施いたしました。調査結果から、“震災後は備蓄の意識が高まり”、実際に“備蓄の準備を行った人の割合も高い”ことが明らかとなりました。

【基本調査概要】

調査方法	：	インターネットアンケート
調査実施機関	：	株式会社ベネッセコーポレーション　女性向けロコミサイト「ウィメンズパーク」
調査実施期間	：	2012年2月23日（木）～2月27日（月）
対象地域	：	全国
対象者	：	全国の母親500名
対象者年代	：	25歳～39歳

【調査結果サマリー】

①　震災後に最も役立ったものは「水」。震災後は備蓄の意識が高まる

震災前に食料や水などを備蓄していた人は3割に満たないほどでしたが、震災以降に「備蓄の意識が高まった」と回答した人は78%に。震災をきっかけに、備蓄の意識は確実に高まっていることが明らかになりました。また、震災前に備蓄をしていた人からは「水が最も役立った」という回答が過半数を占めました。

②　震災直後の間接的被害は半数以上が実感。水・食料品を備蓄するように

震災直後には9割以上の人が「売り切れ」などの品不足を実感。買い占めや物流のストップといった間接的被害を実感した結果、現在では半数以上が水や食料をストックし、緊急時に備えていることが分かりました。

③　平均4,476円をかけて備蓄準備。最も購入金額が大きいのは関東地方

東日本大震災以降、備蓄の購入に費やした金額は平均4,476円と回答しました。購入金額を地域別に見ると、最も金額が大きいのは関東地方、金額が低いのは近畿地方で、その差は倍以上でした。中国/四国地方では震災の影響が少なかったにもかかわらず震災への備えに対し、お金をかけていることが分かりました。
地域によって、備蓄に対する意識に違いがあるようです。

④　震災後、備蓄の必要性は感じているものの、適正な備蓄量や方法が分からない人が多い

備蓄準備を進める人が多い一方で、その必要量や内容が分からないと答える人は6割以上にのぼる反面、参考にしている情報があると回答した人は2割に満たず、震災後1年が経過する現在でも「備蓄の正しい知識」が求められていると考えられます。

さらに備蓄品はそのまま保管している人が圧倒的に多く、震災時に「取り出しやすい位置や収納方法」まで考慮している人は少ないと考えられます。

スマートストックとは？

スマートストックとは、“災害時に備えた正しい量の水・食材のストック”のこと。日頃から水、非常食などを備蓄することは大切ですが、その量が適正でないと賞味期限が切れてしまったり、災害時に持ち出せないなどの「ムダ」へとつながってしまいます。スマートストックは焦らず、自分に合った適正量を知ることから。災害時に必要なストック量や、スマートストックをいかしたレシピ集などは、以下のURLから御覧いただけます。

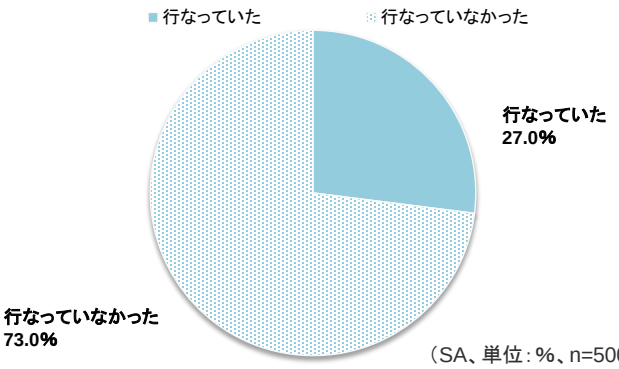
http://www.alkali.jp/life/smartstock/

① 震災後に最も役立ったものは「水」。震災後は備蓄の意識が高まる

震災以前と以降では、備蓄に関する意識が非常に高まっていることがわかりました。震災以前に水や食料を備蓄していた人は、わずか3割足らず（27%）。それに対し、震災以降に「備蓄に対する意識が高まった」と回答した人は78%にのぼることから、備蓄をしていなかったことによる不安や不備を感じた人が多かったものと思われます。

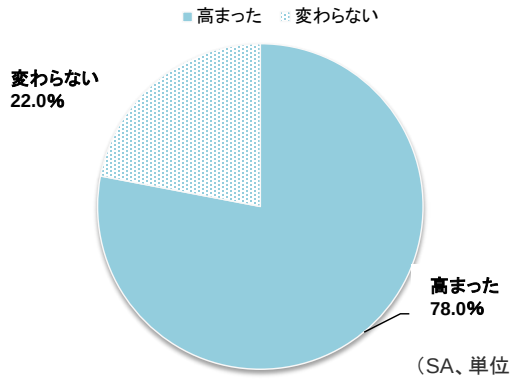
また、震災前に備蓄していた人に「最も役立ったもの」を尋ねたところ、「水」をあげた人が圧倒的多数で52.6%。その理由としては「飲食に困らない」「ムダな出費を抑えられた」といった、買い占め等の間接的被害に対する対策につながったことがあげられました。

東日本大震災発生前に、災害に備えた水や食料の備蓄などを行なっていましたか？



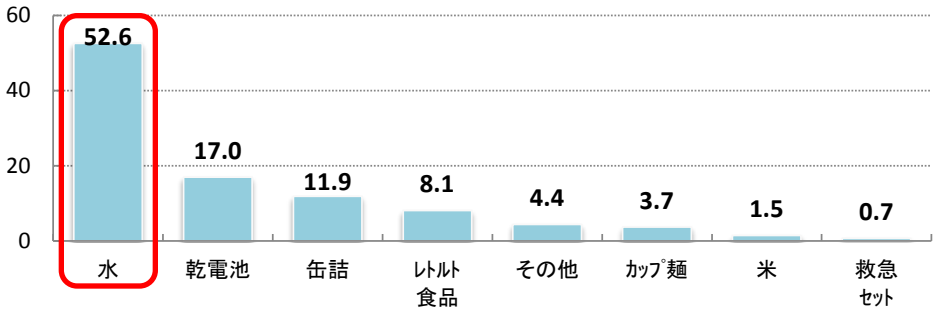
（SA、単位：%、n=500人）

東日本大震災以降、家庭での備蓄に対する意識は高まりましたか？



（SA、単位：%、n=500人）

東日本大震災発生前に備蓄をしていたもので、最も役に立ったものは何ですか？

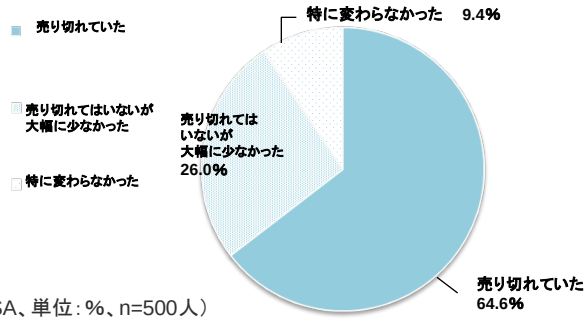


（MA、単位：%、n=135人）

② 震災直後の間接的被害は半数以上が実感。水・食料品を備蓄するように

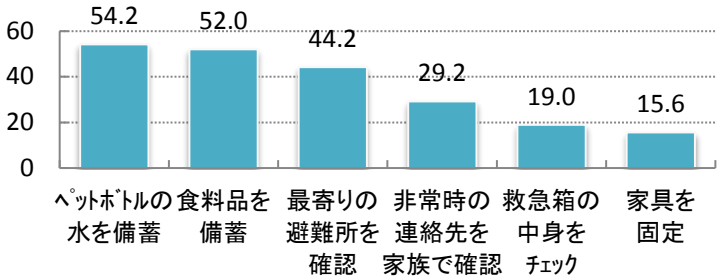
震災時には、家屋倒壊などの直接的被害を受けた人以外でも、「震災直後の買い占め」「物流のストップ」などの間接的被害が発生しました。実際に「売り切れていた」と回答した人は64.6%。「大幅に少なかった」と回答した人と合わせると9割以上となり、品不足を実感した人がほとんどでした。そのためか震災以降に実践している備えとして、水や食料の備蓄をあげる人が半数以上にのぼり、震災以前よりも割合が高まっています。

震災発生直後、水や食料の売り切れなどの現象はありましたか？



（SA、単位：%、n=500人）

震災以降、日常生活における災害の備えとして具体的に実践していることは？



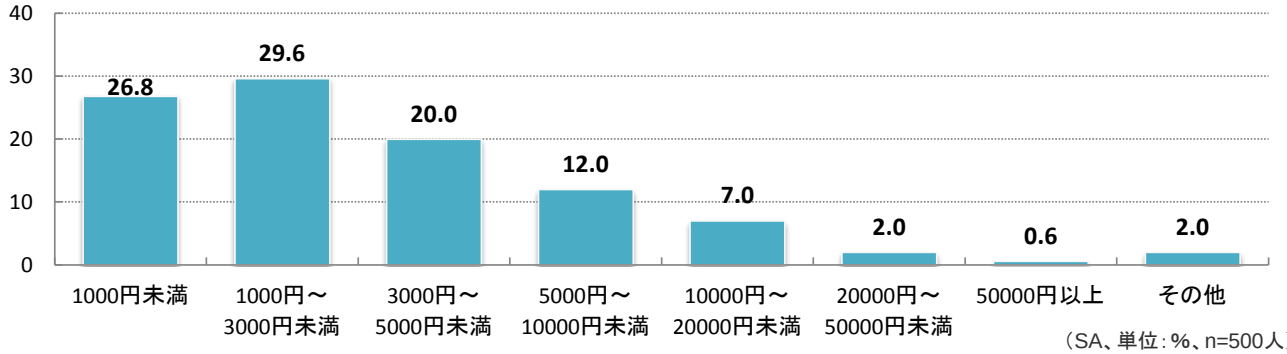
（MA、単位：%、n=500人）

③ 震災後は平均4,476円をかけて備蓄準備。最も購入金額が大きいのは関東地方

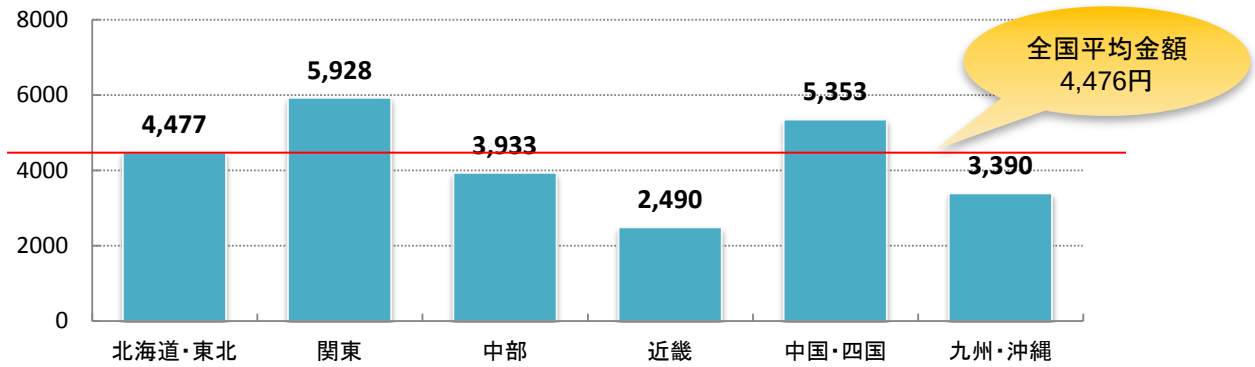
東日本大震災以降、備蓄の購入に費やした金額は平均4,476円。多くの人が何らかのものを買い足し、万が一に備えていることが分かりました。

備蓄の購入にかかった平均金額を地域別に見ると、関東地方が5,928円でトップ。次いで、中国・四国地方が5,353円でした。直接的被害が少なかった中国・四国地方でも備蓄準備にお金をかけていることが分かりました。逆に最も金額が低かったのは近畿地方で2,490円と、地域ごとに備蓄に対する意識に違いがあることが分かりました。

東日本大震災以降、備蓄用品の購入にいくらお金を使いましたか？



（SA、単位：%、n=500人）

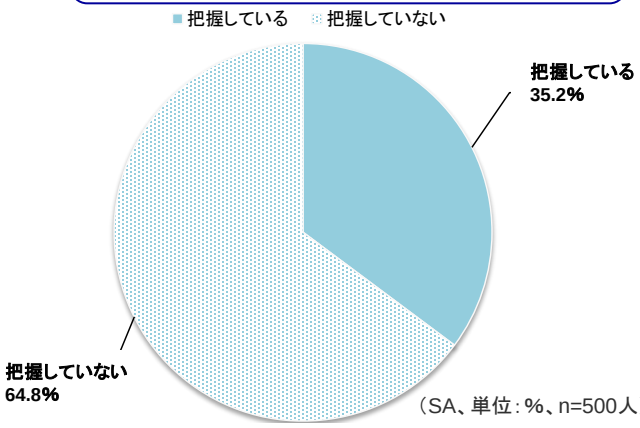


（SA、単位：円、n=500人）

④ 震災後、備蓄の必要性は感じているものの、適正な備蓄量や方法が分からない人が多い

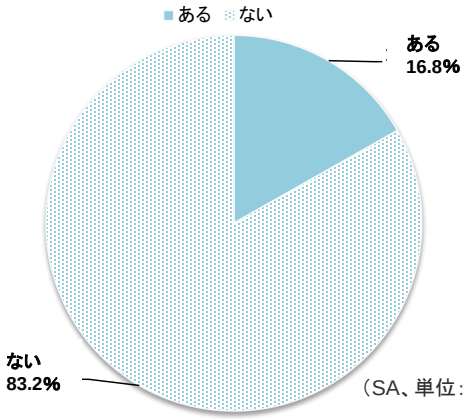
多くの人が震災後に備蓄を進めた一方で、その必要量や内容を正確に把握している人はわずか35.2%にとどまりました。さらに参考になる情報を求めている人（95.4%）や、備蓄品をそのままの状態で保管している人が非常に多く震災後1年経った現在でも、備蓄の「適正量」「保管方法」といった基礎知識が浸透していない様子がうかがえます。

備蓄に必要な水や食料の量は把握していますか？



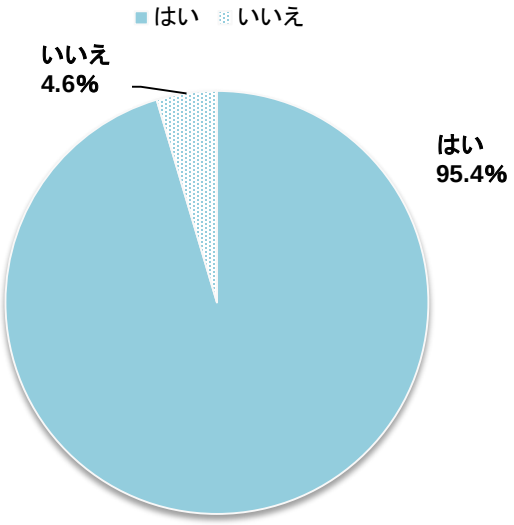
（SA、単位：%、n=500人）

備蓄量の目安となる基準で参考にしているものはありますか？



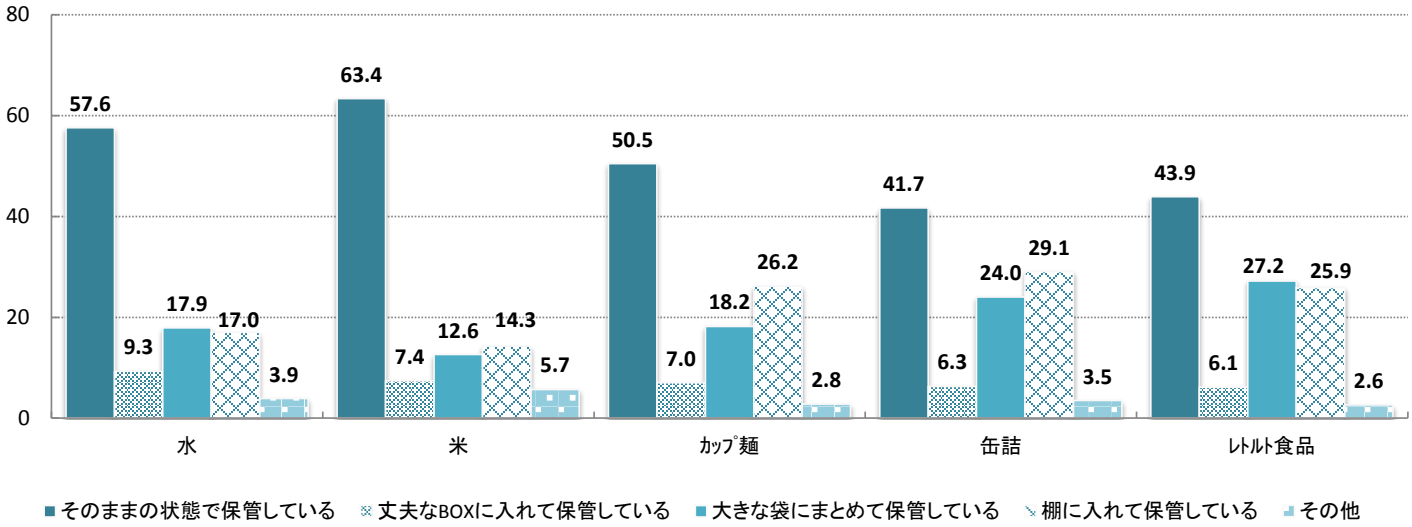
（SA、単位：%、n=500人）

備蓄について正しい知識を提供してくれる情報源があれば見たいと思いますか？



（SA、単位：%、n=500人）

備蓄品はどのような状態で保管していますか？（食料品）



（MA、単位：%、n=500人）

「キリン アルカリイオンの水」について

1.商品名　「キリン アルカリイオンの水」
2.発売地域　全国
3.容量・容器　2Lペットボトル　500mlペットボトル
4.価格　230円（2L）　130円（500ml）
※消費税抜き希望小売価格

5. 商品特長　富士山がはぐくんだおいしい天然水をアルカリイオン化した、
口あたりまろやかなやさしい味わい。毎日の水分補給や、
コーヒー、料理にも。家族の健やかな毎日を、食卓からサポートします。
※2Lペットボトルの採水地は静岡県御殿場市（富士の伏流水）、
500mlペットボトルは静岡県焼津市です。

スマートストックについて

「スマートストック」とは、地震等の災害が発生し、ライフラインが寸断された際にも、必要以上の水を買い占める行動を起こさなくてすむように、普段から自分たちの生活に必要な水、および食料の量を把握し、適正な量をストックしておくことを推奨する考え方です。

この考え方を広く啓発するための施策として、キリンMCダノンウォーターズ株式会社では、東日本大震災発生から約半年となる昨年9月6日を“くまなくむだなく”という語呂合わせにより、無駄に買い占めをせず、自分達に必要な量を知り、災害時に必要な量を備えストックすることを啓発する「スマートストックの日」として、日本記念日協会に 申請の上、制定致しました。同時に店頭とWEBでの啓発活動の展開も行い、オリジナルの「スマートストック」ロゴと、店頭用の販促ツールとしてのオリジナルPOPを制作し、広く展開しました。

災害時に対応できる備蓄量として推奨される「3日分」をひとつの目安とし、大人2名＋こども1名の3人家族が必要な無洗米と水の量を分かりやすく明記しています。「キリン アルカリイオンの水」公式HP内でもこれらの考え方を分かりやすくご紹介するコンテンツを設置しています。

また、今年は、東日本大震災から1年を迎える前に、改めて災害への備えを見直すため、スマートストックの日を年2回とし、3月6日も“みなおすむだなく”という語呂合わせの下、「スマートストックの日」と制定いたしました。
今後も引き続き、様々なスマートストック啓発のための施策の展開を予定しています。

詳しくは→http://www.alkali.jp/life/smartstock/

「スマートストック」ロゴ

※本リリースをお送りさせて頂いている皆様の個人情報は、株式会社アンティルの個人情報保護方針に基づいて、厳重に管理させて頂いております。
今後、弊社からのニュースリリースの配信を希望されない方は、恐れ入りますが　privacy@vectorinc.co.jp　までご連絡をお願い致します。